

育成を目指す資質・能力

単元の目標：「私たちの町へ訪問してもらえるように紹介しよう」
話すこと [やり取り] イ 日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

ICT活用のポイント

地域の留学生を同時双方向でつなぎ，相手と英語で即興的に質疑応答するやり取りを目指す。

単元の目標を児童と共有

グループで紹介文を考える

【第●時】

模擬交流にチャレンジ

【第●時】

留学生に自分たちの住んでいる町を紹介する

事例の概要

- 単元の終末で，自分たちの町の良さを留学生に英語で伝えることができる生徒の姿を願い，「私たちの町へ訪問してもらえるように紹介しよう」というLesson Goalを設定し，実際に海外から来た方々と英語でやり取りするという目標を生徒と共有した。
- 遠隔でつながる小グループごとに，自分たちが住んでいる町を紹介文について考えたり，質問された時のために，やり取りの内容を考えたりした。
- 小グループごとに，ウェブ会議ソフトでつながり，模擬交流を行った。相手のグループが紹介した内容に対してその場で質問するなど，即興的なやり取りの練習をした。
- ウェブ会議ソフトでつないだ留学生に，自分たちの町に訪問してもらえるよう町の良さを紹介をした。紹介した内容や日本の文化等についての質疑に，英語で即興的にやり取りした。

中学校・第3学年・外国語・領域統合型の特設単元 ②

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



青字：ICT端末を利用するポイント

赤字：児童生徒や教師にとってのICT活用のメリット

【活用場面①（第●時）】

単元終末で地域に住む留学生に「私たちの町へ訪問してもらえるように町の紹介をする」ために、ICT端末を用いて、小グループごとにウェブ会議ソフトでつながり、模擬交流を行う場面

- 相手のグループが紹介した内容に対して、その場で質問するなど、留学生とのやり取りを想定した即興的なやり取りをすることができた。

【活用場面②（第●時）】

実際にウェブ会議ソフトで留学生とつながり、自分たちの町に訪問してもらえるように町の紹介をする場面

- これまでは留学生を招いて話を聞くことが多かったが、ICTを活用することで多くの留学生と交流できるようになり、少人数でやり取りが可能になり、一人当たりの発話量が増加した。
- 留学生と会話をする場面では、ICT端末を使い、空間を越えてやり取りすることで、生の英語の発音や留学生の多様な文化に触れることが可能になった。
- 住んでいる町のことだけでなく、留学生の趣味や興味を抱いている日本のことなどについても、即興的にやり取りをすることができた。

【活用したソフトや機能】ウェブ会議ソフト